

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	博士論文の書き方、概論
第2回	博士論文の書き方を口頭で指導
第3回	博士論文の書き方を口頭で指導
第4回	博士論文の書き方を口頭で指導
第5回	博士論文の書き方を口頭で指導
第6回	博士論文の書き方を口頭で指導
第7回	博士論文の書き方を口頭で指導
第8回	博士論文の書き方を口頭で指導
第9回	博士論文の書き方を口頭で指導
第10回	博士論文の書き方を口頭で指導
第11回	博士論文の書き方を口頭で指導
第12回	博士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	博士論文の書き方を口頭で指導
第15回	博士論文の書き方を口頭で指導
第16回	博士論文の書き方を口頭で指導
第17回	博士論文の書き方を口頭で指導
第18回	博士論文の書き方を口頭で指導
第19回	博士論文の書き方を口頭で指導
第20回	博士論文の書き方を口頭で指導
第21回	博士論文の書き方を口頭で指導
第22回	博士論文の書き方を口頭で指導
第23回	博士論文の書き方を口頭で指導
第24回	博士論文の書き方を口頭で指導
第25回	博士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

原則対面による質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	博士論文の書き方を口頭で指導
第2回	博士論文の書き方を口頭で指導
第3回	博士論文の書き方を口頭で指導
第4回	博士論文の書き方を口頭で指導
第5回	中間発表の準備
第6回	博士論文の書き方を口頭で指導
第7回	博士論文の書き方を口頭で指導
第8回	博士論文の書き方を口頭で指導
第9回	博士論文の書き方を口頭で指導
第10回	博士論文の書き方を口頭で指導
第11回	博士論文の書き方を口頭で指導
第12回	博士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	博士論文の書き方を口頭で指導
第15回	博士論文の書き方を口頭で指導
第16回	博士論文の書き方を口頭で指導
第17回	博士論文の書き方を口頭で指導
第18回	博士論文の書き方を口頭で指導
第19回	博士論文の書き方を口頭で指導
第20回	博士論文の書き方を口頭で指導
第21回	博士論文の書き方を口頭で指導
第22回	博士論文の書き方を口頭で指導
第23回	博士論文の書き方を口頭で指導
第24回	博士論文の書き方を口頭で指導
第25回	博士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

対面による質疑応答、場合によりZoomによるオンライン面談

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)		
副題	フランス語の歴史的・理解		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	Le Petit Robert の特徴と問題点
第2回	Le Petit Robert の批判的読解演習
第3回	Le Trésor de la langue française の特徴と問題点
第4回	Le Trésor de la langue française の批判的読解演習
第5回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点
第6回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習
第7回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点
第8回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習
第9回	Dictionnaire des régionalismes de France の特徴と問題点
第10回	Dictionnaire des régionalismes de France の批判的読解演習
第11回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点
第12回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習
第13回	Le Bon Usage の特徴と問題点
第14回	Le Bon Usage の批判的読解演習
第15回	Littre の特徴と問題点
第16回	Littre の批判的読解演習
第17回	Furetière の特徴と問題点
第18回	Furetière の批判的読解演習
第19回	Huguet の特徴と問題点
第20回	Huguet の批判的読解演習
第21回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習
第23回	Godefroy の特徴と問題点
第24回	Godefroy の批判的読解演習
第25回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点
第26回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習

授業方法

講義、演習。遠隔授業の場合は Zoom を使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	モラリスト研究		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

フランスの「モラリスト」と総称される作家たちの作品を取り上げます(モンテーニュの『エッセー』、ラ・ロシュフーコーの『箴言集』、パスカルの『パンセ』、ラ・ブリュイエールの『人さまざま』など)。彼らが人間をどのような観点からとらえているか、彼らの著作に見られる断章的・断片的な形式にどのような意味があるか、などを、広く検討したいと思います。

到達目標

具体的なテキストの読解、分析を元に、モラリストのあり方を理解すること。
それを通じて、広く文学作品を論じるうえでの知見を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解
第3回	テキストの読解
第4回	テキストの読解
第5回	テキストの読解
第6回	テキストの読解
第7回	テキストの読解
第8回	テキストの読解
第9回	テキストの読解
第10回	テキストの読解
第11回	テキストの読解
第12回	テキストの読解
第13回	テキストの読解
第14回	テキストの読解
第15回	テキストの読解
第16回	テキストの読解
第17回	テキストの読解
第18回	テキストの読解
第19回	テキストの読解
第20回	テキストの読解
第21回	テキストの読解
第22回	テキストの読解
第23回	テキストの読解
第24回	テキストの読解
第25回	テキストの読解
第26回	テキストの読解

授業計画コメント

上に挙げた四人の著作の抜粋を、順にみていきたいと考えています。順序や配分については、授業の進み方や参加者の関心に応じて調整したいと思います。

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当がある場合は、事前の準備(1時間)

それ以外の場合は、テキストに目を通しておく(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

院生と学部生とで、評価の基準は異なります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントして返却。

教科書コメント

コピーを配布。

参考文献コメント

それぞれの作品の日本語訳も含め、授業中に紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	Production écrite		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d’abord une analyse des caractéristiques d’un genre particulier d’écrit et s’exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l’aide de l’enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d’écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s’y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s’essaieront ainsi aux techniques de l’écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L’ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l’analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d’un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L’expression de l’opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l’université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d’actualité
第10回	évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L’incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L’extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D’ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d’aventure
第24回	L’imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l’invitation d’un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l’analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d’un type particulier d’écrit.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n’est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l’assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	日常言語について考える		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 3時限 西2－503		

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、主として語用論的な視点から、日常を取り巻くフランス語の言語表現の考察を深めたい。具体的には言葉についての短い文章または論文を読むことで、言語学の第一歩となるような視点を養う。また、定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明
第2回	働きかけの表現 (1)
第3回	働きかけの表現 (2)
第4回	働きかけの表現 (3)
第5回	人称代名詞 vousとtu
第6回	人称代名詞 je
第7回	人称代名詞 nous
第8回	呼びかけ(1)
第9回	呼びかけ(2)
第10回	呼びかけ(3)
第11回	授業発表
第12回	授業発表
第13回	授業発表
第14回	挨拶、感謝、謝罪表現 (1)
第15回	挨拶、感謝、謝罪表現 (2)
第16回	疑問文、命令文(1)
第17回	疑問文、命令文(2)
第18回	発話マーカー(1)
第19回	発話マーカー(2)
第20回	発話行為(1)
第21回	発話行為(2)
第22回	ポライトネス(1)
第23回	ポライトネス(2)
第24回	授業発表
第25回	授業発表
第26回	授業発表

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、言語学の論文を抜粋で読み、議論していく演習方式。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

Quand dire, c'est faire,J.L. Austin,Éditions du Seuil,1970
Les actes de langage dans le discours,C. Kerbrat-Orecchioni,Armand Colin,2008
Politeness Some Universals In Language Usage ,Brown & Levinson,Cambridge University Press,1987
Merci professeur,B.Cerquiglini,Bayard,2008
フランス語の発想,春木仁孝・岩男考哲,くろしお出版,2021

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	19世紀自然主義小説読解		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 2時限 北1－404		

授業概要

エミール・ゾラの小説『ナナ』を取りあげ、そのフランス語原文を精細に読み解くとともに、時代背景や思想的問題についても研究をおこなう。

到達目標

辞書を引きながらゾラの原文をある程度の速度で読みこなせるようになること。また、19世紀フランス文化の諸相について確かな知識をもつようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容の概説と参加者の関心対象の把握
第2回	参加者による本文の訳読、教師による解説、質疑応答
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	まとめ
第14回	前期の講義内容の確認
第15回	参加者による本文の訳読、教師による解説、質疑応答
第16回	〃
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	総括

授業方法

原則として対面による演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、数ページを細かく読み解き、教師の質問に答えられるように準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまでも目安である。
 教室においても、レポートにおいても、参加者の態度の真摯さ、言述の論理性、発想の独自性、下準備の周到さが、主な評価の対象となる。
 また、この授業は、大学院生と学部生がともに履修できるが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートにはコメントを付して返却する。

教科書コメント

『ナナ』の原文は初回にプリントで配布する。

参考文献コメント

参考文献を収集することは研究の基本である。参加者各自が自分の関心に則した参考文献表を日々充実させることが求められる。

履修上の注意

履修者数制限あり。
 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105
講義名	フランス文学演習(大学院)		
副題	Tragédies bibliques		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

Nous lirons quatre textes dramatiques tirés de l’Ancien Testament, à commencer par la toute première tragédie écrite en langue française sur le modèle du théâtre antique grec : l’『Abraham sacrificiant』de Théodore de Bèze (1550). Suivront, dans l’ordre chronologique, 『Les Juifves』(1583) de Robert Garnier, 『Esther』(1689) et 『Athalie』(1691) de Jean Racine.

到達目標

Notre étude portera à la fois sur des questions de langue, de dramaturgie et de versification. Contrairement à l’usage établi au XVIIème siècle, ces pièces ont en commun d’intercaler les scènes dramatiques en alexandrins par des choeurs lyriques en formes strophiques. Je m’efforcerai à chaque séance de régler les problèmes linguistiques que le moyen français (pour Bèze et Garnier) et même par la langue classique pourraient poser à des étudiants exclusivement habitués aux usages contemporains.

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction générale
第2回	Lecture et commentaire d’『Abraham sacrificiant』(1)
第3回	Lecture et commentaire d’『Abraham sacrificiant』(2)
第4回	Lecture et commentaire d’『Abraham sacrificiant』(3)
第5回	Lecture et commentaire d’『Abraham sacrificiant』(4)
第6回	Lecture et commentaire d’『Abraham sacrificiant』(5)
第7回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(1)
第8回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(2)
第9回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(3)
第10回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(4)
第11回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(5)
第12回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(6)
第13回	Lecture et commentaire des 『Juifves』(7)
第14回	Lecture et commentaire d’『Esther』(1)
第15回	Lecture et commentaire d’『Esther』(2)
第16回	Lecture et commentaire d’『Esther』(3)
第17回	Lecture et commentaire d’『Esther』(4)
第18回	Lecture et commentaire d’『Esther』(5)
第19回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(1)
第20回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(2)
第21回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(3)
第22回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(4)
第23回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(5)
第24回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(6)
第25回	Lecture et commentaire d’『Athalie』(7)
第26回	Conclusion générale

授業計画コメント

Ce plan doit être envisagé avec souplesse : il pourra arriver, en fonction des besoins, que nous passions plus de temps que prévu sur un texte. Tout dépendra (aussi) de la bonne volonté des étudiants.

授業方法

Je fournirais des explications chaque fois que le besoin s’en fera sentir... Et même au-delà des besoins exprimés, je le crains !

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

La préparation du texte demandera l’usage d’un dictionnaire spécialisé : celui de Huguët, pour les textes du XVIème siècle, celui de Furetière pour le XVIIème siècle.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Traductions proposées

成績評価コメント

Le but ultime de nos séances étant d’établir une traduction de ces textes difficiles, les propositions des étudiants seront non seulement bien accueillies mais impérativement souhaitées !

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que j’aiderai, dans la mesure de mes moyens, les étudiants à surmonter les difficultés qu’ils rencontrent. Un cours (en principe) est un dialogue constant.

教科書

- Abraham Sacrifiant:Textes Littéraires Français,Théodore de Bèze,Librairie Droz,1,1967
- Les Juives:Folio Théâtre,Robert Garnier,Gallimard,1,2007,978-2070304967
- Esther:Folio Théâtre,Jean Racine,Gallimard,1,2007
- Athalie:Univers des Lettres,Jean Racine,Bordas,1,978-2040112592

教科書コメント

N’importe quelle autre édition me convient, pourvu qu’elle contienne le texte intégral.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		
副題	Aspects de la scene francophone		
英文科目名	Seminar in French Drama		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-307		

授業概要

この授業では、フランス、またフランス語圏で戦後以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を通して、演劇やダンスにおいて幾つか重要な傾向を考えていく。
一つは人形劇と限らない、演劇においての「人形的なもの」を扱う。
もう一つは、いわゆる「ドキュメンタリー演劇」を取り上げる。
できる限り、映像を通して作品に接することを重視する。

到達目標

演劇を文学として読むのではなく、複数の素材によって、また空間や時間を作っていく芸術として如何にアプローチすべきか。また舞台作品というものは、それが生まれた歴史的、社会的、芸術的などの様々な文脈と合わせてその内容や意義を考えていく方法を学ぶ。また、使用言語としてフランス語も使うので、フランス語を勉強する機会にもなる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	人形劇の大衆的な系譜。
第3回	ディデロにおける観念としての人形。
第4回	アントナン・アルトーがバリ演劇で観た踊る人形。
第5回	60年代の人形の再来。
第6回	劇中劇の人形劇。『1789』の場合。
第7回	超人形の発想。
第8回	演技のユートピアとしての人形。
第9回	俳優が挑む人形。太陽劇団の試み。
第10回	太陽劇団の試み, その2。
第11回	人形に取り憑かれた俳優。Giselle Vienneの世界。
第12回	学生の発表。
第13回	まとめ。
第14回	なぜ、ドキュメンタリー演劇なのか。
第15回	ドキュメンタリー演劇の歴史的な系譜と理論。
第16回	『Rwanda 94』の方法。
第17回	『Rwanda 94』の方法, その2。
第18回	『Rwanda 94』の方法, その3。
第19回	Milo Rau の仕事。
第20回	『La Reprise』における事件の再現。
第21回	『La Reprise』における事件の再現その2。
第22回	人形がドキュメンタリーに出合う場合。『Kamp』の場合。
第23回	『Kamp』の場合, その2。
第24回	学生の発表。
第25回	学生の発表。
第26回	まとめ。

授業計画コメント

以上のスケジュールでは場合によって扱う項目の順番などの変更がある可能性もある。

授業方法

基本的には、対面で授業を行う。(遠隔授業の形態を排除しないが、それは例外的な必要に応じるための場合。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

クラス参加は、発表だけではなく、毎回、授業の内容についてコメントを提出する形もとる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

クラス参加は、発表だけではなく、毎回、授業の内容についてコメントを提出する形もとる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の授業についてコメント(質問, 指摘, 提案も含む)をメールで教師に届ける。

参考文献

- 演劇の教科書,C.ビエ、C.トリオー,国書刊行会,2009
- 演劇学のキーワード,佐和田敬司他,ペリカン社,2007

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。